

トコラボ To-Collabo 通信

Tokai university Community linking laboratory

vol.

5

「TOKAIおひろめ芸術祭」を開催しました



10月11日に湘南校舎で「TOKAIおひろめ芸術祭」を開催しました。これは、To-Collaboプログラムの2014年度「地域志向教育研究経費」に採択された「芸術による大学開放を目的とした多世代交流の創出」事業の一環として実施したものです。会場となった10号館と13号館では、教養学部芸術学科の音楽学課程、美術学課程、デザイン学課程の教職員と約130名の学生が、それぞれの課程の特徴を生かした企画で約500人の来場者を楽しませました。

10号館の入り口にある「S-PLAZA」では、音楽療法を学ぶ学生

たちが「昔にもどって“歌ごえ喫茶”」を開き、来場者を出迎えました。学生たちは幅広い世代に楽しんでもらおうと、昭和歌謡からアニメソングまで約80曲を用意。子どもと一緒に踊る場面もありました。また別の教室では、インクを塗ったプラスチックの板に絵を描いて紙に刷る「小さな版画をカンタンにつくろう」や、粘土で車を作る「自由にクルマをつくる『クレイモデリング』」など、教職員や学生が工夫を凝らした22の企画を実施しました。

来場者からは、「大学がどんなところかを知るいい機会になりました」「学生さんが企画して招いてくれるというのうれしい」といった声が聞かれました。研究代表者の池村明生教授(デザイン学課程)は、「130名もの学生が協力してくれて、学年をこえ、先



生方も同じ目線に立って取り組んでくれた。学生にとってもいい学びの場になったと思います。これからも続けていきたい」と話しています。



プログラムを通じて本学の教養教育の改革を

10月1日より学長を拝命し、To-Collaboプログラム運営委員会の委員長を梶井龍太郎学長補佐(To-Collabo推進室室長)に引き継ぎました。しかしながらこれは、本プログラムの推進から離れることを意味するものではありません。先日、学長就任にあたって東海大学の全教職員にお話した際にも、このプログラムを通じて東海大学の教養教育を大きく改革していくことを強調したのですが、これからも学長として活動の先頭に立っていこうと考えております。

特に地域と連携しながら社会的実践力を備えた人材の育成を目指すTo-Collabo必修科目の開講に向けては、学内での議論が徐々に収斂してきております。インターネットへの書き込みで社会を混乱に陥れたり、外国の傭兵を就職の一環として捉えるといった現象を見るにつけても、「若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得」するためのパブリック・アチーブメント型教育の重要性がますます高まっており、できるだけ早期の開講を実現したいと思います。学内外の皆さまの地域との連携の中で、教育・研究・社会貢献が着実にその深化を遂げておりますが、なお一層のご理解とご協力をお願いいたします。

東海大学 学長 山内 謙吉

2014年度「地域志向教育研究経費」(タイプ2) 採択研究の紹介

「To-Collaboプログラム」では、地域の活性化や地域への貢献につながる研究に対し、「地域志向教育研究経費」を助成しています。2014年度からは、2人以上のメンバーで行う「タイプ1」と、5人以上のメンバーかつ所属組織と地域を横断している「タイプ2」

の2タイプを新たに設定。学内にて公募したところ52件の応募があり、このうち32件を採択しました(研究期間は2015年3月31日まで)。今号では今年度の「タイプ2」に採択された9件のうちの3件を紹介します。

湘南校舎



地震・豪雨等による自然災害に関する防災・減災及び救援

研究代表者:工学部土木工学科/杉山太宏 教授

全国的に激甚災害が増えている近年、津波や土砂災害、河川氾濫などが発生した際に、被害を最小限に食い止められる方策の立案が緊急の課題となっています。中でも、被害の軽減に向けた確かな避難計画を立案するとともに、災害発生時の正確な情報収集と伝達を通して、速やかに救難活動を行えるようにすることが求められます。本研究では共同研究者が開発した避難シミュレーションモデルを用いつつ、土砂災害と河川の氾濫に対応できるより効果的なシステムを作り上げ、大規模な災害が起きた際に、発生場所の現在地や属性に応じて的確に避難支援情報を発信できる体制の構築を目指しています。

メンバーは、札幌、高輪、湘南、伊勢原、清水、熊本の各校舎に所属する専門家12人。地震予知や土砂災害、津波や河川の氾濫予測、災害関連のビックデータの解析や災害情報提供方法、防災教育、救急救命措置などの分野を有機的につなぐことにより、さまざまな可能性を模索しています。現在は、地域の安全や安心を担うことを目指して活動しているチャレンジセンターの学生たちの活動などを取りまとめ、防災・減災への展開の方向性を検討しています。

今後はシステムの開発を進めるとともに、シンポジウムを開いて成果を発信し、防災・減災活動への学生の参加や自治体などとの連携体制構築に努めていきたいと考えています。

高輪校舎



世代を超えた知の共有を目指したパブリックアチーブメント型教育プログラムの構築

研究代表者:高輪教養教育センター/福崎 稔 教授

本研究では、大学が有する知的資源を活用した「子ども向けの教育プログラム」を作成、学生がその指導役を務めるとともに、行政や児童館、町内会、近隣住民など地域の協力を得ながら教育システムとして構築していく計画です。全国規模で地域を巻き込んだ展開を検討しており、各地域のニーズや特色を学生の活動を通して理解するとともに、東海大学の各校舎で実践可能とするために、地域間(校舎間)で交換可能な授業コンテンツも作成し、実証実験を行います。

今年度は高輪校舎の情報通信学部と清水校舎の海洋学部で「3D-CG映像の中を体験できる没入型バーチャルリアリティー装置を用いた体験学習」や「魚の透明骨格標本作り」といった新しい授業コンテンツづくりに取り組んでいます。さらに本研究に関連した講義も情報通信学部のカリキュラムとして開講しており、履修学生は教員の指導の下で児童館に派遣され、コンテンツの指導役として授業の計画から実施までを担っています。

同時に、小学生が下校後に集える場所の整備も推進。港区高輪総合支所協働推進課や高輪子ども中高プラザなどと協力して高輪校舎内に10月から児童の受け入れ用のスペースも設置しました。スポーツや遊び、勉強にと活用でき、大学、子ども、保護者、シニア層といった近隣住民が一体となった「学びの空間」づくりを進めていく考えです。

湘南校舎



芸術による大学開放を目的とした多世代交流の創出

研究代表者:教養学部芸術学科/池村明生 教授

少子高齢化が進む日本の事情を考え、地域高齢者を主な対象とした芸術による生涯学習をテーマに、教育・研究・社会貢献のモデルケースづくりを目指します。キーワードは“多世代交流”と“大学開放”です。湘南校舎では10月11日に「TOKAI おひろめ芸術祭」を開催し、11月8日から29日には「東海大学芸術学科公開講座」の開講を予定しています。おひろめ芸術祭は、幅広い世代の市民に大学に来てもらい、学生や教職員と一緒に芸術に触れ、楽しんでもらうことを目的に実施しました。一方、公開講座は50歳以上を対象に、教養学部芸術学科の3課程の特長を生かし、「音

楽講座」「美術講座」「工芸講座」を用意。講義と実習を交え、大学の知を地域に還元します。

また、札幌校舎の国際文化学部デザイン文化学科や、熊本校舎の経営学部の教員もメンバーに入っており、今後、それぞれの立地条件や地域のニーズにあった形で公開講座などを実施する予定です。他大学でも地域連携を目指す取り組みは多くありますが、長期間続けられる教育プログラムとして確立されているものは少ないのが現状です。今年度の活動を通して、他大学に先駆けたプログラムを作れるよう取り組んでいきたいと思ひます。

地域の子どもたちを対象に 科学実験教室を行いました

科学実験教室「いろいろなミュータントの観察・研究室を見学してみよう」を、8月1、2日に伊勢原市こども科学館と伊勢原校舎で開催しました。この催しは、医学部の阿部幸一郎准教授が研究代表者を務める「医学部と伊勢原市子ども科学館による生命科学実習を通じた地域連携」の一環で近隣の小学生や中学生、保護者を対象に実施したものです。



1日目は科学館の実験室で、医学部の石井直明教授らの指導を受けながら、参加者がさまざまなミュータント(突然変異体)を顕微鏡を使って観察。マウスやセンチュウの正常な遺伝子型を持つ個体と、突然変異を起こした個体の比較などを行いました。また、自分の口内粘膜からDNAを抽出し、ネックレスモジュールに入れたペンダント作りなどにも取り組みました。2日目には伊勢原校舎に会場を移し、医学部の研究室ツアーを実施。8研究室の教員がそれぞれの研究内容を説明した後、教員の指導を受けながら簡単な実験にも挑戦しました。

工作を通して理科の魅力にふれる 「ものづくり体験教室」を開きました



8月7、8日に湘南校舎で、平塚市内在住の小学校5、6年生を対象にした「ものづくり体験教室」を開きました。この催しは本学と平塚市の協定に基づき、理科教育への関心を高めてもらおうと教育支

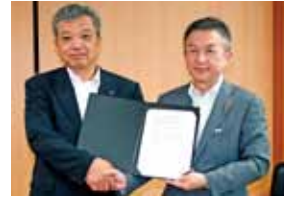
援センター技術支援課が中心となって企画したものです。両日とも「ぶんぶんゴマ発電機の作成」と「工作機械でキーホルダー作成」の体験教室を実施し、27組の親子が参加しました。

発電機の作成では技術支援課の職員が発電の仕組みを解説した後、発電機の工作を体験。また、職員の指導を受けながら実際に旋盤を使って板状の金属に名前などを刻印し、オリジナルキーホルダーを完成させました。

熊本県商工観光労働部と包括協定 地域の産業振興での連携を目指し

九州キャンパス(熊本、阿蘇両校舎)が7月29日に、熊本県商工観光労働部と包括協定を締結しました。「地(知)の拠点整備事業」を活用し、地域の産業振興上の課題を協力・連携して解決するとともに、豊かな地域社会の発展に資することが目的です。

今後は、医療福祉、食品、エネルギー、観光などの分野で専門の教員が技術指導にあたるほか、各種セミナーに講師を派遣し、地元企業の新製品開発などを後押しする計画です。



調印式には、県商工観光労働部の真崎伸一部長や中嶋卓雄学長補佐(九州キャンパス担当)らの関係者が出席し、協定書を取り交わしました。

産業界と医療・介護の現場をつなぐ 医工連携マッチングセミナーを共催

8月26日に、熊本市内のKKRホテル熊本で開催された「第1回医工連携マッチングセミナー～ものづくり技術が医療・介護の現場を変える～」(主催=熊本県、熊本市、一般社団法人熊本県工業連合会)を共催しました。7月29日に九州キャンパスと熊本県商工観光労働部が締結した包括協定に基づいて実施したもので、医療か介護の現場とものづくり関連企業のマッチングを図ることが目的です。

当日は企業や医療関係者ら約150人が参加しました。シップヘルスケアホールディングス(株)グループ統括室の西謙一氏が「医療機器・医療サービス産業へのマーケットインによる新規参入」と題して講演したほか、「医療現場に必要なもの」と題するパネルディスカッションを実施。岩橋正國教授(基盤工学部)がコーディネーター役を務め、佐藤綾助教(同)や県内の医療機



関に勤務する臨床工学技士ら5人がパネリストとして登壇。佐藤助教は医療現場の企業の橋渡し役を務める人材の必要性や、共同研究推進に向けた大学の取り組みを紹介しました。

「軟石を探せ！ バスツアー」に40人が参加 札幌の歴史を支えた史跡を巡りました

観光学部の松本亮三教授が研究代表を務める採択研究「広域観光のディスティネーション・マネジメントを通じた地域振興」の一環で10月11日、札幌市内で「軟石を探せ！ バスツアー」を実施しました。明治時代から建築資材として



活用されてきた「札幌軟石」についての理解を深めてもらい、広域的な観光振興につなげようと、軟石を扱っている辻石材工業株式会社、札幌軟石文化を語る会とともに開いたものです。当日は市民約30人が、かつて採石場として栄えた石山緑地や軟石を使って建造された札幌市資料館などの史跡を巡りました。また、辻石材工業の所有する採掘場も訪れ、端材の採集も体験しました。

2014年度「地域志向教育研究経費」 採択課題の中間報告会

2014年度「地域志向教育研究経費」に採択された32件の研究代表者が、これまでの成果と今後の課題を報告します。また当日は、九州大学大学院システム情報科学研究所の荒木啓二郎副研究院長(教育担当)による基調講演『「高等教育機関における実践型教育と情報化」について』とパネルディスカッション、情報交換会も行います。
日時:11月22日(土)13時～17時40分／会場:東海大学熊本校舎本館5階／入場料:無料 ※詳細は後日、To-Collaboプログラムのホームページに掲載します

東海大学サテライトオフィス地域連携講座 11月のご案内 受講料無料

小田急線「東海大学前駅」徒歩1分にある東海大学サテライトオフィスでは、「To-Collaboプログラム」を推進する地域貢献活動の場として、地域連携講座を開講しています。地域の皆さまとともに考え、協力し、地域と大学の交流の活性化を目指しています。皆さまの参加を心からお待ちしています。

◆シリーズ 入門!「古代エジプト」文明～鈴木コレクションに見る古代世界～

11月21日(金)13時～14時30分／講師:山花京子(文学部アジア文学科准教授)／第4回「古代エジプト人の衣食住」／会場をサテライトオフィスから湘南キャンパスへ移し、本学所蔵のエジプトコレクションをお見せします。実物を見られるまたとない機会です

◆シリーズ グローバルカフェへの誘い～東海大学が開く魅惑の世界～

さまざまな国・地域から東海大学に来ている留学生や教職員から、文化

や生活などの話を伺います。報道やインターネットだけでは知り得ない話を聞いて、世界を広げませんか?

11月19日(水)15時30分～17時:ハワイ／11月22日(土)15時～16時30分:モンゴル②

◆アラブ世界そこが知りたい

11月22日(土)13時～14時30分／講師:アルモームン・アブドゥラ(国際教育センター准教授)／NHKのアラビア語講座などでおなじみのアルモームン先生がアラブ世界についてお話しします。

〈申し込み方法〉

サテライトオフィスまでお電話ください。受講料は無料ですが、講座により資料代・教材費が必要な場合があります。申込期限は開講日前日の16時までとなり、25人の定員になり次第締め切りとなります。なお、受講者は秦野市、平塚市、伊勢原市、大磯町に在住・在勤の方に限らせていただきます。

【東海大学サテライトオフィス地域交流センター】

☎0463-78-5188 <http://www.u-tokai.ac.jp/satellite/>

To-Collaboプログラムの 公式Facebookページを開設しました

「To-Collaboプログラム」の概要や活動をお知らせする公式Facebookページを開設しました。

公式ホームページでは紹介しきれない細かい情報をご紹介しますほか、地域志向教育研究経費に採択された先生方の記事をシェアするなど、多彩な情報を発信します。「いいね!」をぜひお願いいたします。

アドレス:<https://www.facebook.com/tokai.coc>

推進室から

先生方や職員の皆さんの地域連携活動をサポートします

To-Collaboプログラムは従来、各校舎や教員によって個別に行われていた地域連携に関係するさまざまな活動を結びつけ、総合大学として地域貢献を推進するとともに、全学で実施しつつある教育改革・組織改革をさらに進展させることを目指しています。

そのため、学内ですでに実施されているものや実施予定の地域連携に関する活動のうち、本プログラムの主旨に添った活動であればTo-Collabo推進室が積極的にサポートいたします。*

本プログラムでは地域志向教育研究経費として、各年度の初めに教育・研究・社会貢献活動を公募し、採択された計画に対して活動費を助成しています。これらの公募計画以外の活動であっても、本プログラムの主旨に添っていると認定されればTo-Collabo推進室が各種活動のお手

伝いをいたします。

どうぞお気軽にTo-Collabo推進室にお尋ねください。

※To-Collaboプログラムの趣旨に添った活動とは、地域貢献活動のうち以下の4つのテーマに基づいた4計画8事業の内容に沿った取り組みを指します。

I 地域の生活を充実させる(地域デザイン計画)

1. 安心安全事業 2. ブランド創造事業

II 多世代の交流を促進する(ライフステージ・プロデュース計画)

1. 大学開放事業 2. スポーツ健康事業

III 地域の魅力を発信する(観光イノベーション計画)

1. 地域観光事業 2. 文化・芸術事業

IV 自然環境を守る(エコ・コンシャス計画)

1. エネルギーハーベスト事業 2. 動植物保護事業

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」採択 「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」

全国にキャンパスを有する大学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し協力して解決策を見出す取り組みです。To-Collabo(トコラボ)とはTokai University Community linking laboratoryの略称で、日本全国に広がる総合教育機関の高等教育拠点である東海大学(Tokai University)の特色を生かした教育・研究活動と地域をつなぐ(Community linking laboratory)を示しています。

『To-Collabo通信』vol.5 (2014年10月号)

発行:東海大学To-Collabo推進室 URL:<https://coc.u-tokai.ac.jp/>
〒259-1292 神奈川県平塚市北金目四丁目1番1号
TEL:0463-50-2406(直通) / FAX:0463-50-2034 / E-mail: coc@tsc.u-tokai.ac.jp



東海大学が育てる「4つの力」
「自ら考える力」「集い力」
「挑み力」「成し遂げ力」
イメージキャラクター リツキー